

修道

information

- 挨拶
 - 退任のあいさつ 高木一之(高校10回)…………… 1
 - 就任のあいさつ 深山英樹(高校12回)…………… 1
- 支部総会報告
 - 関東支部 山田伸彦(高24回)…………… 2
 - 近畿支部 世良朋孝(高35回)…………… 2
 - 九修会 石本俊亮(高27回)…………… 3
 - 江能修友会 胡子雅信(高41回)…………… 3
 - 修道医会 大段秀樹(高33回)…………… 3
 - 広島修道歯科医会 毛利雅哉(高31回)…………… 4
- 人物往来
 - キリマンジャロ山登頂 中村憲二郎(高41回)…………… 4
- 歴史
 - 一期一会のいつか「回顧録」五日会の心の宝 藤田正明ボチ夫婦
森山純爾(旧中29回)…………… 5
 - 修道中学・火と水の思い出 木村知博(旧中38回)…………… 7
- 同期会報告
 - 久しぶりのアカネ会旅行 天野和人(旧中37回)…………… 8
 - 四期会報告 河野富士雄(高4回)…………… 8
 - 関東地区四期会報告 皆川孝一(高4回)…………… 8
 - 平成26年度 修七会報告 山下泉(高7回)…………… 8
 - 高校8回クラス会報告 風呂肇(高8回)…………… 9
 - 第一回三校OB 下久保純一(高20回)…………… 9
 - 第27回 修寿会 前事務局長 田中佳樹(大商11回)…………… 9
- 同窓会ニュース
 - すみかちゃんの報告とお礼 岩田明之(高41回)……………10
 - 修道学園同窓会連合会特別表彰……………10
 - 修道学園同窓会連合会 永年勤続者表彰……………10
 - あすなひろし原画展ヒロシマ開催……………11
 - 林県議会議長 全国都道府県議会議長会会長に就任……………11
 - 平成27年版(第36号)同窓会名簿発行……………11
- 修道学園(中・高)同窓会設立100周年記念事業
 - 「修道学問所之蔵」移築・復元工事並びに募金活動完了報告……………12
- 事務局だより
 - 住所変更手続きのお願い……………15



退任あいさつ

修道学園(中・高)同窓会会長 高木 一之



同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素から本同窓会に対し格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、平成23年度より前大田哲哉会長の後を受け同窓会会長に就任しましたが、このたび任期満了により会長の職を辞することになりました。在任中は公私にわたり格別のご支援ご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。この間、同窓会創立百周年の記念事業として、「修道学園所蔵」の移築・復元を行うにあたり、多くの同窓生の方々のご理解とご賛同を賜り、また、全面的なご支援と多額のご寄付をいただきましたことをこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

お陰様で移築・復元工事は無事、この夏までには終えることができました。これから広島市の重要文化財指定に向けての最後の作業が残っておりますが、これは次期会長に託したいと存じます。

なお、後任の同窓会会長には、高校12回の深山英樹会長代理が就任いたしましたので、私同様、二層のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

就任あいさつ

修道学園(中・高)同窓会会長 深山 英樹



このたび高木二之会長の任期満了による退任の後を受け、平成26年4月1日より、修道学園(中・高)同窓会会長を拝命いたしました高校12回の深山でございます。

既にご高承のとおり、修道学園(中・高)同窓会は、組織的な活動を開始して以来、百有余年にも及ぶ長い歴史と伝統を誇ります。発足以来今日まで実に長きにわたる歴史と伝統のあることを改めて知り、身の引き締まる思いであります。

もとより微力ではございますが、同窓会発展のため全力を尽くしてこの重責を果たしてまいりますので、何とぞ前会長同様、二層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

役員

新役員選任

(任期 平成29年3月31日まで)

○修道学園(中・高)同窓会

- [名誉会長] 森本弘道(高7)・大下龍介(高7)・高木一之(高10)
- [会長] 深山英樹(高12)
- [副会長] 貫名賢(高14)・伊藤學人(高20)・松田弘(高24)・廣谷清(高28)・中村靖富満(高30)・大方幸一郎(高38)

○修道学園同窓会連合会

- [名誉会長] 森本弘道(高7)・大下龍介(高7)
- [会長] 高木一之(高10)
- [会長代理] 深山英樹(高12)
- [副会長] 上野淳次(大商3)・高本友博(大院1)

○修道学園(中・高)同窓会 名簿委員

- [委員長] 大方幸一郎(高38)
- [委員] 山本一(高19)・穴田一善(高20)・三浦陽治(高28)・坂田典久(高31)・川崎博行(高34)・西村昌浩(高39)・濱田茂(高49)
- [担当副会長] 中村靖富満(高30)

○学校法人修道学園 評議員

- 山下泉(高7)・大塚淳八郎(高8)・高木一之(高10)・深山英樹(高12)・貫名賢(高14)・上田宗岡(高16)・伊藤學人(高20)・松田弘(高24)・廣谷清(高28)・中村靖富満(高30)・上野淳次(大商3)・細川基(大商9)・松井敏(大商11)・篠原敦子(大商18)・江川準一(大人1)・久保弘陸(短一4)

○学校法人修道学園 理事

- 高木一之(高10)・深山英樹(高12)・上野淳次(大商3)・松井敏(大商11)

支部総会報告



関東支部総会報告

山田 伸彦(高24回)

去る七月十四日、修道学園同窓会関東支部のつどいを東京ドームホテルにて「4」の期が実行委員を受け持ち、「修道健児よ、高き理想に生くるなり」というテーマで、林理事長、深山同窓会会長、浅野名誉学園長、田原校長、林近畿支部代表幹事を来賓にお迎えし四百名を超える参加者となり、盛大に開催しました。

講演会は元フジテレビアナウンサーで現在文化放送で活躍中の福井謙二(高24回)さんにより「チームワークとコミュニケーション・サバタイトル：テレビ界の裏側」と題して自身司会をされた人気番組「料理の鉄人」の裏話をまじえながら絶妙な話術で会場を魅了し、もつと聴きたいと惜しまれる中で大盛況のうちに終了しました。

今年は和洋折衷で二部構成のイベントとなりました。第一弾は開催日がパリ祭の日と重なったこともあり、「けふはパリ祭」と称して広島女学院卒で現役歌手WINとして活躍されている、梅宮玲子さんによるシャンソンライブ。迫力ある歌声と軽妙な語り口で、広島弁による「ラストダンスは私に」他、全3曲を披露。最後の曲「らくでなし」では女学院同期の方も加わり、会場は合唱の渦に包まれました。



第二弾として、下町の伝統を守り続ける江戸川区篠崎にある「雲龍太鼓保存会」の皆さんによる演奏。曲目は「雲龍一段返し」と「疾風(しつぷう)」の2曲、女性五人を含む十人の演者による迫力あるパチさばきで体と太鼓が一体化し、その発する大音響は会場全体をついに纏め

上げ、我々修道健児に力強いエールを送っているようでもあり、まさに心に響く、テーマに相応しいものとなりました。

最後は恒例の校歌斉唱。今年の先導は中内景(高54回)さんが務め、若さ溢れる口上と音頭取りに大会は最高潮に達し、まさに会場全体が一体化した瞬間でした。

今年の司会は、岡崎壮之(高14回)さんのご息女であり女優で舞台語り手として活躍されている、岡崎弥保さんにお願ひしました。プロの福井さんも思わず唸るほどの機転の利いた語り口でちょうどしたアクシデントも難なく切り抜け、優しい雰囲気の中で会場を盛り上げ進行をスムーズにリードしていただきました。

最後になりますが、準備の段階では焦りと不安の毎日でしたが、いざ始まってみると「4」の期の皆さんの機敏な動きに支えられ、あつという間の三時間で幹事の方々に感謝するとともに、あらためて修道学園同窓会の素晴らしさを感じさせられた一日でした。

2013年度近畿支部総会・懇親会報告

近畿支部事務局 世良 朋孝(高35回)

2013年12月1日(日)、ホテル大阪ベイトワ(港区弁天)において、近畿支部2013年度総会および懇親会が開催されました。今回も広島から田原校長、深山同窓会会長代理、また関東支部からは、野崎幹事長をお迎えし、久々の100名越えとなる、ほぼ120名近くの間窓生が集まりました。司会は今年も副代表幹事の有馬さん(高校24回)。総会に先立って、午前11時から、独立行政法人造幣局理事長、新原芳明さん(高校20回)による講演「広島・大阪と造幣局」でスタートです。

近畿支部在住の間窓生にはなじみの深い、桜の通り抜けて有名な大阪造幣局の

ほかに、二番目に大きな造幣工場が広島にあること。また勲章作成にまつわるお話や、世界的に見ても高額貨幣である五百円硬貨の偽造・変造防止のための秘策など、新原さんにはお堅いテーマにも拘らず、興味深いエピソードやユーモアを交え有意義な講演をいただきました。

その後、会場を移動し、総会に移りました。始めに、長年にわたり近畿支部の運営にご尽力いただきました、故・天津裕さん(高校7回)をはじめ、この一年間にお亡くなりになったOBの皆様方、哀悼の意を表し黙祷をささげました。近畿支部会長の齋本さん(高校17回)の開会挨拶の後、前年度の事業報告・会計報告が、代表幹事・会計担当の林さん(高校19回)より、また会計監査報告が監査担当の伊藤さん(高校13回)からそれぞれ付議され、各議案および報告事項とも全会致にて承認され、総会は滞りなく終了しました。

この後、引き続き、田原校長・深山同窓会会長代理・野崎幹事長の順に、ご来賓各位のご挨拶により懇親会が開始されました。中でも田原校長からは、広島で開催された研修会で全国から集まった教育関係者のアンケートにおいて修道が本年度のトップランキングに推されたという明るい話題、新された人工芝グラウンドの様子や、陸上短距離ロードンオリンピック日本代表山縣亮太さん(高校63回)凱旋の話題を交えて、母校修道学園の近況をご報告いただきました。そして、同じくご来賓としてご出席いただきました島眞實元校長(高校7回)の乾杯の音頭ののち、しばしの間、懇談、昔話に花が咲きました。

次いで、懇親会の華ともいべき豪華ゲストの相次ぐ登場により会はクライマックスを迎えます。まずは京都在住で全日本学生音楽コンクールに優勝されるなど、最も注目される若手ヴァイオリニストの一人、小島燎さん(高校63回)の素晴らしいヴァイオリン演奏で幕開け。その才能あふれ

る繊細かつ華麗な演奏に、参加者一同酔いれました。次に毎回華麗なマジックで大好評を博している、マジシャン・ピリーこと副島雅之さん(高校29回)の登場。ファンタスティックなマジックが次々と飛び出し、今回も、ピリーの神の手から相次いで繰り出されるスゴ技の数々に、参加者は度肝を抜かれ、魅了されたひとときでした。

また、毎年恒例となりました若手参加者の披露ご挨拶。今回は、後日大阪弁護士会副会長に選任された高校37回の魚住泰宏さんをはじめ、法曹界で活躍中の高校53回の古谷さん以下若手同窓生3名にもご登壇願ひ、一言ずつ近況報告をいただきました。これから若い年次の卒業生が数多く参加いただけるよう、心から期待しています。

最後に、毎度おなじみになりました近藤達夫さん(高校29回)のソロ。相変わらずの音量に同圧倒され、その勢いそのまま、全員が肩を組みながらの校歌斉唱となりました。卒業した年代は違えども、修道近畿支部の同窓会旗のもと、「安芸の小富士に」と歌い始めると、自然とあの頃に戻る感覚を味わえるのは、同窓会ならではと、いつも感じます。最後に、結城副会長(高校17回)による閉会挨拶で幕を閉じ、次回2014年12月7日(日)の再会を誓い合いました。

ご協力いただきました皆さま、関係各位、そして参加者の皆様、改めて御礼を申し上げます。



平成25年度第21回九修会総会

九修会事務局 石本 俊亮(高27回)

21回目を迎えた九修会総会は、例年どおり、年明けの1月25日(土)に開催することが出来ました。会の冒頭、昨年ご逝去された4名の会員の方のご冥福を祈るため、黙とうを行いました。開会の挨拶では、井上会長(S43)より、カープCSシリーズ進出、サンフレッチェの優勝の話題など、福岡では接する機会のない話題を交えた挨拶をいただきました。

続いて、事務局石本より、昨年の修道学園(中・高)同窓会の報告と新しい修道の襟章紹介を行いました。襟章は、少しわかりにくいという意見もありましたが、襟章の色の話で盛り上がりました。

乾杯は、席決めで配布する「番くじ」を引かれた、浅海さん(S62)にお願いし、にぎやかに懇親会がはじまりました。今年度の総会も、当初18名の出席を予定していましたが、所用で欠席された4名の方を除く14名で、それぞれの近況や、学園時代の思い出を語り合いました。

今年度新たに参加された日野さん(S55)は、今回参加されなかった同期生とのつながりを話されていました。また、久しぶりに参加された能美三人衆(黒田、中里、花岡)の一人中里さん(S38)は、中学時代の三人衆のつながりを面白く語っていただきました。今回参加された、古川さん(H4)は、大学の関係で中里さんとのつながりがあったことがわかりました。リタイアされた諸先輩もそれぞれに新たな生活を始められ、そのことを楽しそうに話されていました。今年も予定の2時間半を過ぎて、3時間があつという間に過ぎ去りました。最後は、校歌で締めくくりに来年度の再会を誓いました。

1月のこの時期は、私立中学の入試と

重なり、子どもの試験で参加できなかった三好さん(H1)の話題も出て、総会時期を変更することが次回までの宿題となりました。



後列左側より、古川(H04)、中里(S38)、石本(S40)、芹川(S47)、花岡(S38)、秋山(S36)、濱岡(S41)、石本(S50)
前列左側より、黒田副会長(S38)、田島(S37)、浅海(S62)、井上会長(S43)、石村(S35)、日野(S55)

第20回 江能修友会総会

胡子 雅信(高41回)

平成16年11月1日に江田島・能美・沖美・大柿の4つの町が合併して江田島市が誕生しました。今年には合併10周年という記念すべき年であり、また、平成7年7月7日に発足した江能修友会も20年目に入る節目の年です。

今年も江田島市能美町にある能美海上ロツジにて総会および懇親会が開催されました。修道学園(中・高)同窓会より深山英樹会長、学園からは近川俊治事務局長が昨年が続いてご参加くださり、懇親会では深山会長に温かいご祝辞を頂戴しました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回の目玉は、参加した皆さんに江田島産サツマイモから造られた芋焼酎「てく

てく」を試飲していただいたことです。この芋焼酎は江田島市に住む若者たちが耕作放棄地(荒廃農地)を利用して新たな特産品づくりにチャレンジしてできたものであり、元気な島づくりの一端を紹介させていただきました。最後に参加者一同が輪になり肩を組みながら校歌を歌い、来年度の再会を約束して閉会しました。



平成26年度 修道医会総会報告

修道医会事務局長 大段 秀樹(高33回)

修道医会とは修道学園を卒業し、主として広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は1,000名以上です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会(野球観戦)等を催しています。平成20年から学生部会をつくり、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は平成26年7月19日(土)、ANAクラウンプラザホテル広島を会場に開催しました。午後4時30分より評議員会を開いた後、午後5時からの総会において、平成25年度の事業報告や決算報

告に加えて、平成26年度の事業計画や予算が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。加えて、第16回学術奨励賞は高校44回卒の高橋信也先生(広島大学病院心臓血管外科)が、脊髄虚血の新たな治療法の可能性に関する論文業績によつて受賞されました。第14回社会功労賞は、井藤久雄先生(高校19回卒)、井内康輝先生(高校19回卒)が遠隔病理診断、北村直幸先生(高校39回卒)が遠隔放射線画像診断において医療福祉の貢献で受賞され、第7回文化功労賞は、中垣満先生(高校12回卒)が版画での輝かしい経歴を対象に受賞されました。

次いで午後5時半より特別講演として、高校31回卒で日本医科大学内科学(循環器内科学)主任教授の清水渉先生より「遺伝性不整脈と私」と題した講演を拝聴しました。

第58回修道医会総会懇親会



支部総会報告

午後6時半からは会場を移して懇親会を開きました。土肥博雄会長(高校16回卒)のご挨拶に引き続き、ご来賓の林正夫修道学園理事長、深山英樹修道学園(中高)同窓会長よりご挨拶を頂きました。田原俊典校長から学園の現状を伺いました。さらに前述の3つの賞の表彰と受賞者の謝辞が続き、土肥雪彦先生(高校6回卒)のご発声で乾杯して懇談に移りました。途中で、寺面和史先生(高校34回卒)三菱三原病院院長のご紹介、ご挨拶がありました。学生部会からは8名が参加し、自己紹介をして頂きました。

今回の参加者は88名でありましたが、最後に肩を組み校歌を斉唱し、修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

広島修道歯科医会総会、創立50周年記念講演会、祝賀会

毛利 雅哉(高31回)

平成25年11月9日(土)午後3時より、「ANAクラウンプラザホテル広島」にて70名の参加者のもと、総会、50周年記念講演会、祝賀会が開催された。

総会は椿田直也専務理事の司会で、物故者への黙祷、小松昭紀会長の挨拶、久保康治常務理事の庶務報告、寺迫環理事の会計報告、佐々木正剛監事の監査報告と例年通り進行了。協議では17年の永きに渡り会長を務められた小松会長が勇退されることとなり、後任には1月から大原省三新会長が就任されることが満場致で決定した。

その後の記念講演は、ミドリ十字ほか多くの薬害事件を担当し、三浦和義氏の口説きや小沢一郎氏の陸山会事件、村木厚子氏(現厚労省事務次官)の障害者郵

便制度悪用事件では無罪を勝ち取るなど、メディアにも数多く登場される弘中惇一郎弁護士より「所謂「悪人」の弁護と憲法」のテーマで講演をいただいた。講師の弘中氏は佐々木監事と同級の修道高校第16回卒業で、ご多忙の中、来広いただき、法曹界の第一線で活躍される弘中先生ならではの経営も含めた弁護士の仕事、正義とは悪人とは、裁判制度の問題点など盛りだくさんの内容であった。この中で「檢察とマスコミ・大衆が一致して悪人を作り上げる」の説には、マスコミを通じてしか知らない有名人を悪人と決めつけていた自分を考える機会となった。

祝賀会には荒川信介県歯会会長・林正夫修道学園理事長をはじめ多くの来賓をお招きし、小松会長より「広島修道歯科医会五十年の歩み」の挨拶、功労者表彰の後、樽酒の鏡開きで開宴した。広島

修道歯科医会は初代森田順次会長で発会して以来五十年の歴史を積み、修道を愛する会員は現在197名を数え、広島歯科界の重責を担う会員も多い。今後の益々の発展を祈念しての大原新会長の音頭による校歌斉唱のあと、前田哲二副会長の辞で閉会となった。



祝賀会には荒川信介県歯会会長・林正夫修道学園理事長をはじめ多くの来賓をお招きし、小松会長より「広島修道歯科医会五十年の歩み」の挨拶、功労者表彰の後、樽酒の鏡開きで開宴した。広島

人物往来

キリマンジャロ山登頂

中村憲二郎(高41回)

2014年2月27日〜3月7日の日程で、高校8回飯田敬明先輩(76歳)と高校41回中村憲二郎(43歳)ワンゲル班(OB)ほか1名で、アフリカ大陸最高峰キリマンジャロ山(5895m)に挑戦し、3月5日全員無事登頂を果たしました。

飯田先輩は2007年69歳の時、私がアシスタントをしていた登山ツアーに健康づくりを目的に参加され、登山を始められました。以後、県内の山だけでは飽き足らず、百名山は既に70山以上、富士山にも数回登頂されるに至りました。普段は週2〜3回近くの山へ、その他の日も鉛を足に付けてウォーキングをして鍛錬、海外の山にも挑まれるようになり、ネパールやスイスアルプスの4000m峰には、私もご一緒させて頂きました。

しかしいくら鍛えているとはいえ、6000m近い標高と先輩の年齢を考えると、今回は高度障害が大きく懸念されました。そこで、出発前には協力者のご厚意で低圧室でのトレーニングを重ね、3500mまでの高度順化をしました。また、登山ルートはテント泊でゆっくり登るルートを選びました。(このルートは、キリマンジャロ3大ピークすべてを目にできるうえ、ジャングル、雲霧林、砂漠、岩場、氷河と、毎日景色に飽きることがありませんでした。)さらに、標準日程に2日追加し、毎日の歩行時間を短くし、疲労が蓄積しないように工夫しました。

登山中は高山病予防のため、毎日苦

労して3ℓの水を飲んだおかげか、高度障害はさほど出ませんでした。登頂日は強風の中深夜2時半に4700mの最終キャンプを出発し、8時間かけて標高差1200mを登って山頂に立ちました。幸いまだ雲が湧いておらず、氷河と青空、そしてアフリカの大地の地平線を楽しむとともに、30以上学年の離れた先輩と共に山頂にいるご縁の面白さを感じました。

登山歴わずか7年、76歳の飯田先輩の登頂成功は、中国新聞、朝日新聞、ラジオ番組に取り上げられ、多くの頑張る高齢者に勇気を与えたものと思います。今年度より「山の日」が新しい祝日に加わり、登山への関心が高まる中、簡単ながらご報告させていただきました。



中村

飯田

一期一会のいつか「回顧録」
五日会の心の宝
藤田正明ボチ夫婦

森山 純爾(旧中29回)



故 藤田正明君

有り難き「叙勲の誉れ」や風光る
真実「路傍の石」の草芳しき

修道OBの有志「五日会」諸君の心の中に生き続けている藤田正明君(旧中30回卒)の思い出話の一端を披露しよう。その趣旨は「和而不流」(荀子)に尽きる。大筋は西郷隆盛の処世訓「有尽無報」(尽くす有りて報い無し)で貫かれている。その二つの裏話(あの日)(あの時)を旧中で私と同期の武田孝治君に語ってもらおう。

喜んで ボール転がす 梅雨の明け

正明君と私との(あの日)は昭和10(1935)年春から始まる。彼が旧中に進学、蹴球部に入った(あの時)、私は2年生だった。正明君はドリブルの名手で、だれと取り返せぬテクニシャンだった。

早稲田大学の予科に進学、サッカー部に入ったが、正選手のうち、正明君の持ちボールを横取りできる先輩はいなかったという。それを機に正明君の鼻が高くなった。それと同時に肺気腫になって退部したのは残念の極みである。元気に続けていたら、日本代表として世界に通じる名選手になったに違いない。

藤田家では、お手伝いさんが正明君を

「ボッチャン」と呼んでおり、私たちは「ボチ」と呼称するようになった。夏目漱石の「坊ちゃん」にも共通させてのニック・ネームでもあった。

ボチが昭和52(1977)年、総理府総務長官に起用され、帰広した(あの日)、ボチ事務所を訪ねた。私の上司の叙勲が思い通りに運んでいるのにお礼を述べるつもりだった。もう先客の県医師会総務担当理事が来所、その問答を側聞する羽目になる。(叙勲は総理府から現在は内閣府章勲局所管)

被爆時の 救援の叙勲に 一位の実

「藤田先生には失礼ですが、わが県医師会の大内会長の叙勲について、厚生省に強い先生に陳情中です。それが思うようになりません」

「大内さんの功績調査には、被爆当時は市内在住でないことになってますね。どこかで軍医として従軍されておられたのですか」

「いいえ、広島市大手町の病院を閉鎖、近郊に疎開中でした」

「被爆時には？」

「市内へ駆けつけ、救急医療に大汗をかかれ、医師として当然の義務という顔でした」

「その実績が調査には載っていませんね。新しく追加申請の手続きをとって下さい」

被爆の焼け野で救護活動した場合、勲位が1階級上がるのは内規になっていた。これで大内さんは念願を果たされた。ここで、叙勲についてのボチの持論を直接に打ち明けよう。

叙勲の官民 平等ボチボチ 走り梅雨

叙勲そのものに異論はないが、階級をつけるのはどんなものだろうか。差別をつけ

るなんて不愉快である。しかも受章対象は官高民低(7対3)となつている。民間の社会奉仕が軽視されている。死後の叙位に階級をつけて、遺族や現世の人々が納得する仕組みに替える構想を練っている。それが本来の栄典制度だよ。今のは「在り難き有り難き」在り方だな。

私はボチ没(あの時)以後、体調が思わしくなかった。以下は妻の久美に語らせる。

武田はボチ(失礼)先生に遅れること3年の春に黄泉の国へ旅立つのを予知していたようです。臨終の枕元で、言い残しました。「わが悪友(ここでも失礼)モリさんと、森山純爾君に弔辞を頼んでほしい」と。案の定、武田は桜とともに春3月にボチ先生の国へ散つて逝きました。

春番 大地を蹴つて 天に舞う
モリさんは依頼を承知、弔辞を声涙で読み上げて下さいました。その締めくくりに「俳句でした。サッカーマン武田を惜しまれた不幸時に詠まれる悲しいのが「弔句」ですが、躍動感に満ちあふれ、遺族同感一杯です。」

武田家の墓所に建てたその句碑のオープニング・セレモニーで、モリさんは、その句の下五を差し替えると、つぶやかれました。どうしてでしょう。

春番 大地を蹴つて オフサイド

モリさんの真意は、武田はモリさんより48日遅く生まれているのに、先に逝つたから、三途の川の線審は「オフサイド」の旗を掲げる、とおっしゃる点にあるのです。

ボチ先生と武田たち旧中時代の蹴球部は昭和12(1937)年秋、三高専(広高、高工、高師)主催の県下蹴球大会優勝戦で、仇敵の広島一中(現国泰寺高)に1:0で勝つた(あの時)の1点について、あの世で思い出話の花を咲かせているでしょ

う。その1点は実はオフサイドだったといわれるのですが、線審が取り上げなかったという経緯があるので、それまでも俳句の題材にしたモリさんの推敲(すいこう)ぶりには、お手上げでしょう。

そう武田に呼び掛けたら、天国から無言の返答があったような気がします。

「どこでだれがオフサイドだったのかと、ワイワイ騒いでいると、ボチ独り言に曰く」

「空き樽は音高し」

この名言の意味をモリさんに聞きますと、こう教えて下さいました。

軽率で口先ばかりの人は、頭の方もからつぽというたとえだよ。「酒満たざる樽は音がする」ともいい、中身のない人は騒がしいということ。「空車はどううるさい」(デンマーク)。「浅瀬に仇波」(瀬の浅い場所では、川音が高い)ということも同じ。

果樹を植え 名誉県市民で なき誇り

最後にもう一つ、モリさんに、世にも不思議なことを聞きました。ボチ先生は、広島商工センター造成やアジア競技大会の広島招致、県全域に及ぶ林道開発、田圃を統合して米づくりの基盤を整える「ほ場整備」、それに大河ドラマ『毛利元就』の実現やサッカーのプロ化提唱など、いずれも20年がかりで大きな仕事をこなしておられるからです。

「ボチ先生は、あれほど県市民に尽くされたのに、なぜ名誉県市民になられなかったのでしょうか？」

モリさんは胸を張って答えられました。

「これぞ、彼の心がけ「有尽無報」の一端だよ。うれしいじゃないか。世のため、人のためになれば、路傍の石ころでも構わないと、けろりだよ。艱難(げんなん)汝(なんぢ)を玉にす…の見本だね」

ボチ先生は、「石ころ」論を張っておられ

たようにいわれております。それを聞きます。

「その石ころは、人が蹴り飛ばして通るだろう。じっとして通してあげる。『石の上にも3年』で、我慢して時を待つんだ。これぞ真の『トトの生きる道の勇氣』といえよう」

カーブ勝つても 一人静や 路傍の石
 「人生は死ぬことじゃない。生きることだ。何よりも生きなくつてはいけない。自分自身を生かさなくつてはいけない。たった一人しかない自分を、本当にかがやかし出さなかつたら、人間生まれ来て来たかいないじゃないか」(山本有三『路傍の石』)

そうそう「他山の石」が、ボチの口ぐせだった。古くからよく知られた言葉で、現代でも使用頻度が高い。その割には誤解もあり、「自分とは全く関係ないこと」という珍答も出てこよう。なにしろ、どこかの山の石ころだから。出典は中国の『詩経』の「他山の石以て玉を攻くべし」による。

「玉石混淆」とは言うが、玉と石とは価値が全く違う。それを、石だから全く役に立たないかと言えば、そうでもない。よその山から出た質の悪い石でも、玉を磨く砥石として使える、ということ。これぞ、自分より劣っている人の言動でも、教訓として自分を磨く役に立つというのが本来の意味。

裏話 ばかりで通学 落第生

〈あの日〉から20数年を経て、ボチの叙勲の階級差別廃止論は十分とはいえないが、改訂されている。武田君よ、ここでは「ボチ」ではなく、ボチ先生の先見の明には、頭が下がらないかね。その「明」は「正しく、明るく」生きたボチの名前の「明」に通じると思える。

「五日会」は、その「明」に心服して生まれた。ボチの命日5月27日には今も「正明

忌」と名づけて、広島市の三滝墓園へ墓参。彼らの心の中に生き続けているボチと話し合っている。以心伝心の間柄といえよう。

彼らは、幾ら狭い衣帯水の渡る世間でも互いに手を取り合つて謙虚に威風凛々と進む。その関係が、彼らの間の阿吽の呼吸に昇華しているに違いない。

一つのパンを みんなで食べる 月見の灯
 「パンがつであるから、わたしたちは多くいても、つのがらだなのである」

続けて、こうある。

「みんなの者が一つのパンを共にいただくからである。」(『新約聖書』)

「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」(ドイツの詩人・劇作家シラー)

「人間社会は人間が支配している。その中で一番大きな働きをするのが、信頼と尊敬とで結ばれた真の和の人間集団の働きだ」(出光興産創業者・出光佐三)

「何はともあれ、私たちの畑を耕さねばなりません」(フランスの思想家・ボルテール)

「五日会」の諸君の胸を打診、人間の働きについて確かめてみる。

もう数年 走つておれば 五輪の花

「正明先輩(行年74歳)がもう10年、いや5年長く活動しておられたら、今の広島県市は大きく変わっているだろう」

「例えば？」

「今から10年後には、広島県市内で世界オリンピック開催が決定しているのは間違いない」

それには多くの汗をかかねばならない。アジア競技大会広島招致には大変な努力を必要とした。つまり、仕事の鬼になって、人生を縮める結果につながった。世をリードする黒子も生きた鬼になれなかった。

「五日会」の諸君は総論賛成!、各論反対?と来た。

「世のため、人のためなら、仕事の鬼も本望。きつと成仏されているに間違いない」

渡る世間は鬼ばかりではない。その鬼に對しては桃太郎さんが退治してくれる。

「五日会」はボチを助ける桃太郎さんであつたらう。ボチの胸にも桃太郎さんがいたが、鬼ではなく、驚天動地の断固仕事に負けた。驚天動地の汗の固まりを拭つて力んでも来たのである」

「力耕不吾欺」
 力耕 吾を欺かずと読む。東広島市の米どころ、助実地区の田畑整備記念碑にボチが自筆した教訓。中国の晋(宋時代の詩人、陶淵明(365~427)の持論。淵明は字で実名は陶潜。官吏となつたが、権勢にこびることを嫌つて故郷に帰り、農耕をして一生を送つた。俗に「田園の詩人」といわれている。

その淵明が衣食はよろしく自らの手で作り出すべきもの、懸命に耕作に励めば裏切られることはないはず……と歌つたのが、この記念碑の教えの出典。

自宅前にあるこの記念碑を毎朝、掃除している農家の沖田俊秋さん(78)を手伝っている妻の典子さんは迷懐する。

「お陰で広々とした田んぼに生まれ変わ、コンバイン、田植え機も備えた。余裕ができて、ワタシヤ、好きなカラオケを歌い、しあわせじゃ」と……

♪…ゼニが仇の世の中だと

おれは浪速の夢を売る
 なめたらあかんぞ 男の命……

そう、演歌「浪速の夢」をうなづけてくれた。そこで早速、一句を返す。

CDで 演歌聞きつつ 早稲を刈る

俊秋さんは「わしは毎日、あの碑文を見ながら、土地は手入れしていけば人間に

報いてくれる」と思つちよる」と語る。

権勢にこびる点では、ボチは断じて応じず、役人の既成観念「前例」を打ち破つた異例があるが、その話は来年まで待つてもらおう。

最後に「話せば分かる」ボチに明治以来3代にわたる政党政治家、犬養毅(1855~1932)元総理にならつて

問答論を贈る。昭和7(1932)年5月15日、満州事変阻止を企図したとして、陸海軍青年将校に官邸で射殺された折の絶叫「話せばわかる」に對して「問答無用、撃てて」で狙撃死。これが後生に語り継がれている5・15事件。

寒稽古で もつと噛みつく 恩着たかつた
 その点、ボチは「問答有用」主義で、いつも若者とよく話し合う機会を待ち構えていた。

「五日会の諸君に、もつと大いに噛みついてもらいたかつたですなあ。恩に着たかつたですよ」

ボチよ、まあーそう言わんで、安らかに眠つてほしい。

そのボチは病床で、「有尽無報」に悟りの哲学を勉強したようである。アメリカの発明家エジソン(1847~1931)が

新聞記者のインタビューに對するコメントである。

「天才は、1%の靈感と99%の汗の持ち主である」

汗をかく精神、汗をかき続ける生き方がなければ、進歩発展・前進はありえない。絶えず手足を動かす、体験から考え、それをまた手足で確かめる。その無限の繰り返しで「見膨大な無駄、多くのエネルギーの中から、初めて新しいアイデア、発想が生まれてくる。

ボチは100%が汗。「断じて行えば鬼

神もこれを避く「主義でやり抜き、」で
人間より、できた人間「で永遠の眼目に
就いた。」

西郷どん 分かつたでござす 世の泳ぎ

ボチの座右の銘「有尽無報」の主人公、
西郷隆盛は、できるか、できたかは別と
して言っている。

「予、壮年より艱難という艱難に懼り
しゆえ、今はどんな事に出会うとも動揺
は致すまじ。それだけは幸せなり」と。

ボチが通った早稲田大学創立者の大隈
重信に西郷どんの座右の銘に似通った遺
訓がある。

「施して報を願わず、受けて恩を忘れ
ず」

卒業しても 多くまなびし 大隈老公

最後にボチに、休息の教訓を二つ加える。

「疑う余地のない純粋な喜悦の二つは勤
労の後の休息である」(ドイツの哲学者カ
ント)

「疲労は最大の枕である」(アメリカの政
治家フランクリン)

この「修道」の提稿締め切りぎりぎりの
今日はボチの命日「正明忌」である。朝で
幕参、その戒名に政道を学んだ。薫風梢に
霞む丘の上で、市内の半分が見渡せる三
滝墓園。校歌冒頭の「安芸の小富士」も浮
いて見える。戒名はこうである。

「広経院釋政道」 合 掌

正明君は、参議院議員議長としては超
党派の「和而不流」、地元広島では「有尽
無報」の生だった。その裏方に荀夫人の縁
の下の支えがあったことを肝に銘ずべきで
ある。

「対立し合うものは調和し合う」(ドイ
ツの教養小説家の泰斗、トーマスマン)
「忍を以て鑑となす」(『大乘仏教聖

典)

平成26年(2014)年5月27日
注「来年は『敵は仕事の鬼に在り』(仮題



もりやま じゅんじ 純爾
(旧中29回)

1920年7月3日生まれ

荒神町小をへて

1938年 旧制修中卒

1944年 早稲田大学第一高等学院を
経て同大学商学部を学徒動

員で入隊と同時に仮卒業

1945年 入隊中に名誉卒業、復員

東京読売新聞社に入社

1963年 同社を退職、藤田正明選挙

を取り仕切る。

1996年 正明君病没で引退、天下の一

兵卒として渡る世間の裏街

道を探索中。

現在、景気はよいが、人の心

に疑問が残る。

1988年 旧制修中卒後50年を顧みて

川柳を詠む。

校庭を出て はや半世紀 反省す

修道中学・火と水の思い出

木村 知博 (旧中38回)



木村 知博

私は昭和17年4月に修中に入学した。
しかし、勉強よりも勤勞奉仕の記憶が多
い。昭和19年6月に江波の三菱広島造船
所に勤勞動員される。昭和20年に入ると
3月19日、7月24日、28日に米艦載機を
主とした呉湾周辺の艦船への空襲がある。
7月28日にはB24、B29も来襲した。これ
で残存聯合艦隊は消滅した。更に7月1
日に呉市街への焼夷弾空襲もあったが、広
島は4月30日にB29単機の爆弾投棄が
あったのみだった。

7月28日の空襲時には造船所西の埋立
地の蛸つば塚にいた。銀色のB24が高度
2000m辺りを堂々とした編隊で頭上
を過ぎたが、爆弾落下がなくほっとした。
その時、中の1機が高射砲弾を受け五日
市奥に墜落し、落下傘が2つ観音方向に
降下した。

20年の春から特殊潜行艇「回天」の溶
接作業をしていた。8月6日の原爆投下
時には正門近くの診療所において、閃光・爆
風が過した後、江波山の向こうに入道雲
が上ったのを見る。15時過ぎに帰宅が許
され、太田信爾君と帰途についた。舟入の
火災を避け、江波から吉島の渡しに乗り
ついて南大橋を千田町に渡る。東詰に山
中高女の生徒が数人蹲っていた。南大橋か
ら広電車庫の間は倒壊した家屋の屋根の
上、下を抜ける苦勞をし、東千田町から
比治山橋を渡り、太田君の寄宿先(親戚)
の安否を尋ね段原小学校前まで行った。
長い夏の日も暮れ、暗くなった夕闇の中
にまだ大きく赤い炎が上がっていた。誰も見
当たらず、私たちは東雲町の私の姉の家
に帰った。

後日聞いたのであるが、田中正晴君(水
泳班)、浜田二君など数名は、江波から千
田町、宇品に泳いで帰宅したそうだ。

翌7日、再度段原小学校前に行き太田
君と別れ、私は造船所に向かう。鶴見橋
から強制疎開地(現平和大通)を西に進
み、白神社から電車通りを紙屋町、相生
橋と歩いた。白神社前の防火水槽に黒い
焼死体の女性が虚空を掴むよう右手を
伸ばしていた。また、大手町の日銀前辺り
で、脱線して焼けた電車の中に、被爆前の
まま焼失したつり革に手を伸ばした黒い
遺体が並んでいるのを見た。熱線と爆風
はどのような暴力を振るったのか。

8月15日の終戦の詔勅は呉市吉浦の自
宅で聴いた。

しかし、昭和の三大台風の一つである枕
崎台風の氣象予報は聞いていない。9月17
日夜10時、吉浦の自宅にいた私は大きな
音で山崩れを直感して外に出た。助けを
求める声を聞いたがそれは無理だった。翌
日、50m位下に家があった1級下の高専寺
君(旧中39回)は、母上とロープで結んだ遺
体で見つかる。彼は優秀で副級長をしてい
た明るい少年だった。初秋の日差しの中、流
出土砂の河原で茶毘に付す。何体の遺体
を焼いただろうか。9月に入り連日降って
いた雨は台風過後暗れに変わり、20日ま
で晴天の日が続く。呉市の17日18時から4
時間の降水量は113.3mm(鎮守府呉測
候所記録)、死者は1154人、全壊・流
出家屋は2000戸近くに達している。

10月に学校に登校すると、「原爆前、
5クラスいた同級生は3クラスになってい
た。昭和21年1月には母が病没した。毎
朝4時半に竈の火を起し、弁当をもた
せ広島に送りだしてくれた母だった。

4月、農林省水産講習所に合格し、修
中を5月初めに退学する。結果として旧
中38回・昭和22年卒となったが、5年生に
は1ヶ月しか行っていない。

同期会報告

久しぶりのアカネ会旅行

天野 和人(旧中37回)

4年ぶりに去る10月19日から21日にかけて2泊3日で東北の八甲田の自然に包まれた昔懐かしい山の湯宿酸ヶ湯温泉をスタートに十和田湖上遊覧や奥入瀬渓流散策など夜は奥入瀬渓流ホテルで酒を酌み交わし昔過ごした修道中学時代の思い出話に花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

絶好の紅葉シーズン旅行を計画してくれた横田幹事は自然の力に勝てず、前日から東北地方に寒気が入り防寒対策をしての旅行となりましたが、皆の精進が良かったのか多少時雨れたりしましたが、あまり傘をさすこともなく寒さも思ったほどなくまあまあ天候で楽しい旅行でした。横田幹事に感謝、感謝!!

お互いに高齢になっていますので、五体満足とはいきませんが、半蔵門病院医学博士副院長の小早川先生に体のご指導をいただきながら、残された人生を楽しみたいと思っております。



参加者(旧中37・38回卒)
東京組 小早川勝登、渡辺寿昭、横田武、
正木健一郎
広島組 天野和人、西原雄二

朋あり 遠方より来たり
また楽しからずや 孔子

四期会報告

河野富士雄(高4回)

定例の総会・懇親会を6月14日(土)正午からメルパルク広島5階で開催しました。ご招待の恩師、田中喜久治先生と川野観治先生は、お二人ともご高齢故においでになれなくなりました。

寂しいことですが、弟子がすでに傘寿超ですから。集まった同期生は33名、県外からの出席者なし、これもしかたありません。フリードリンクの酒量も減ったようです。しかし欲談の声は賑やか。

最後は恒例の校歌と修道バンザイ。「来年もやるぞ!」と決意表明をして散会しました。



関東地区四期会報告

皆川 孝一(高4回)

昭和27年(1952年)に巣立った高校4期の私たちは、毎年続けて6月に四期会の集まりを続けており、平成13年には傘寿と銘打って盛大に開催しました。

一方、関東の千葉、埼玉、東京、神奈川4都県に住む27名ほどが四期会関東支部として、リタイアのころから毎年桜の時期に顔合わせを行ってきました。このころ健康上の理由などから滞りがちとなっていました。ところが、広島での傘寿記念会に呼応して久しぶりに7名が集まりました。さらに広島から万年幹事として活躍している河野富士雄君(17代校長)が遠路参加してくれました。

場所は、銀座にある広島ブランドショップPTAUの中にある瀬戸内ダイニング「遠音近音」で、東京地区幹事の中丸哲夫君が、あらかじめ店に頼んで黒メバルの煮つけ、デビル焼など懐かしいメニューをアレンジしてくれました。広島の味覚や銘酒を賞味しながら、過去現在未来(一)のことを語り合い、河野君から母校の様子を聞いたりしながら久しぶりの歓談は大いに盛り上がり尽きることがありませんでした。

平成26年度 修七会報告

山下 泉(高7回)

平成26年度の修七会が例年通り7月の第一土曜日、7月5日にANAクラウンプラザホテル広島で恩師の保澤先生、現役の田原俊典校長のご出席を賜り、総勢60名の参加で盛大に開催されました。

十年前頃は、恩師には十名程度の出席をいただいていたのですが、今年は保澤先生お二人で非常に寂しい限りです。田原校長から中・高の現状について力強いお言葉を頂戴し、更なる発展に向け確実に飛躍している状況の報告をうけ、全員安堵し頼もしくも感じました。

例会での話題はやはり「健康」のことが中心となっています。同期の年齢も77歳か78歳で気分は若くてもやはり十分な老人であり当然のことと談笑しました。

関東修七会から小田弘三君、山田哲也君の二名が参加し、近況報告に加え、来年度卒業六十周年の節目には大挙して参加するので十分準備をしてくださいと杉山会長からのメッセージが伝えられました。

また、関東修七会で小説家の今子正義君がこのたび「原爆少年サッカー魂」を出版し、権田君が紹介しました。内容は修道をはじめ附属、国泰寺、山陽のライバル校で全国大会の出場権をかけた熱き戦いが中心になっています。全校生で応援した青春が掲載されています。



最後の締めは元校長島眞實君の音頭で校歌を斉唱し、閉会しました。
 なお、7月5日の修七ゴルフは10名の参加で志和CCで開催し、大野好君が優勝しました。



高校8回クラス会報告

風呂 肇(高8回)

昭和28年高校に進学した我々は、1年3組新見剛士先生担任のクラスで新しいスタートをしました。以来60年が過ぎ、全員後期高齢者となりましたが、これを機にクラス会を開くことになりました。残念ながら、新見先生は長い闘病生

活の末、平成23年12月に他界されました。
 小池彰久、小出徹司両君の世話で平成25年6月15日(土)午後1時、広島駅新幹線口のホテルグランヴィア広島に13名が集まりました。奈良県在住のご長男新見哲也氏より先生ご夫妻の写真を送っていただき、記念写真を撮りました。なお、新見先生のお墓は、井口2丁目正順寺の墓地にあります。クラス会前の6月10日、ご長女川崎こずえ様のご案内で、堀田敬三君と私の2人がクラスを代表して募参いたしました。以上、簡略ながらご報告とさせていただきます。



第一回三校OOB

親睦交流ゴルフコンペ開催

下久保純一(高20回)

2013年11月16日(土)に第一回の三校OOB(修道・基町・海田)親睦交流ゴルフ

コンペが、「リージャスクレストゴルフクラブ グランド」で開催されました。
 各校8名が参加し、上位3名の平均で順位を競いました。

修道高校からは、12回生の児玉憲三・盛井浩・橋本洋・山本繁生先輩の4名、20回生の三田耕治・下久保純一、30回生の松井直也、34回生の古谷公宏が参加しました。



写真一列目が、優勝校「修道高校」のメンバーです。古谷、松井、下久保、三田、山本、橋本、盛井、児玉

順位は橋本先輩の個人優勝、そして三田さん古谷さんの大活躍により、団体優勝いたしました。

優勝校は皆さんの前で校歌を歌うこととなり、児玉先輩のすばらしい先導で久しぶりに「安芸の小富士に茜さ

し」を8人で歌いました。
 そもそもこの交流会の発端はバレー部繋がりでそうです。

バレー班OOBの山本先輩へ知り合いの海田高校バレー部OOBの方から話が来たそうです。

この交流会は年一回秋の開催とし、次回幹事校は基町高校となりました。来年は他の高校にも声をかけ、少しずつ規模が広がります。

修道高校の幹事長は、12回生の盛井浩先輩です。再来年は幹事校となりますので、多くのOOBの皆様にご協力をお願い申し上げます。

第27回修寿会 総会・懇親会報告

前事務長 田中 佳樹(大商11回)

修道中学校・高等学校退職教職員の集いである「修寿会」(会長・島眞實、会員79名)の第27回総会・懇親会が平成25年10月12日(土)、12時からメルパルクHIROSHIMAで開催され、18名の参加をいただきました。

開会宣言の後、黙祷を行ない、平成25年5月11日に101歳で亡くなられた升本俊之会員のご冥福をお祈りしました。松尾博之氏ご発声による乾杯。島会長から新会員橋口浩和氏のご紹介並びに橋口氏から入会のご挨拶を頂戴しました。

島会長から、年一回の修寿会を、会員による日頃の趣味や研究結果の発表の場にし、より多くの会員のご参加と相互の情報交換に努めたいとの提案がなされました。「隼より始めよ」の言葉どおり、



松尾 田中(博)・田中(佳)・橋口・向井・竹永・内・北川・吉崎・壹岐・木村
中山・街道・河野・畠・保澤・田中(正)・木元

今回は、会長による「学問所の蔵」についての卓話が行われ、参加者の皆さんは南千田校地へ移築された学問所の蔵の話をも、熱心に聴き入っておられました。参加者からの近況報告も和やかな雰囲気で行われ、健康づくりや予防医学についての貴重な体験談や松尾会員が持参された、第1回修寿会の記念写真を眺めながら、当時のご自身や先輩教職員の姿を懐かしく振り返っておられたようです。

恒例行事である、円陣を組んでの校歌斉唱のご発声を壹岐俊平氏に、また、保澤治氏ご発声による万歳三唱を行ない、予定した時間を大幅に超過してのお開きとなりました。

次回は、平成26年10月11日(第2土曜日)12時からメルパルクHIROSHIMAでの再会を予定しております。

同窓会ニュース

すみかちゃんの報告とお礼

岩田 明之 (高41回)

この度は、長尾正久さん(高41回)のご令嬢すみか(澄花)ちゃんの心臓移植の募金にご協力いただきまして本当にありがとうございました。皆さまのおかげですみかちゃんは渡米することができ、5月30日に心臓の移植手術を受け無事成功いたしました。

現在は手術を受けたピッツバーグ大学メディカルセンター近郊に滞在中で、しばらく経過観察の後、移植した心臓に問題がなければ帰国できる予定です。

すみかちゃんは昨年2月にお母さんの実家である富山県で産まれて以来、住まいのある広島の地にはまだ足を踏み入れたことがありませんが、皆さまのおかげで大切な命をつなぐことができ、広島の自宅で家族水入らずで暮らせる日々を夢見て養生しています。

しかし、移植した心臓は移植後も様々なケアが必要で、今後も年に1回はピッツバーグで検査を受け続ける必要があります。

皆さまの温かいご支援で繋いだ大切な命ではありますが、今後も皆さまのご協力が必要な場合もあるかもしれません。どうか末永くご支援いただきますよう心よりお願い申し上げます。

順調にいけますと来年春頃にはピッツバーグから日本に帰国できる予定です。帰国して落ちつきましたら改めて皆さまにご報告をさせていただきたいと思っております。



修道学園同窓会連合会特別表彰

修道学園同窓会連合会は、平成26年4月1日、発足20年を迎えました。これまで同窓会の発展に特に顕著なる功労のあった方々に対し、平成26年6月6日開催の幹事会・評議員会の席において大下龍介同窓会連合会会長より表彰状と記念品料が贈られました。

被表彰者の方々は、次のとおりです。

森本弘道氏、山下泉氏、児玉憲三氏、上野淳次氏
(以上4名)



修道学園同窓会連合会 永年勤続者表彰

修道学園同窓会連合会役員として20年の永きにわたり、同窓会発展にご尽力のあった次の方々に対し、平成26年3月20日に開催された幹事会・評議員会の席において、永年勤続表彰が行われました。

永年勤続被表彰者

菊田良三氏、藤居道正氏、中本高明氏、松田 弘氏、
廣谷 清氏、仮田典久氏、新藤幸次郎氏、佐々木明氏、
川崎博行氏、大内茂稔氏、久保康治氏、山本繁生氏、
脇浦則行氏(以上13名)

あすなひろし原画展ヒロシマ開催

「あすなひろし」のペンネームで漫画家として活躍した矢野高行氏(高校11回、故人)の原画展が、4月26日から5月5日までの10日間、被爆建物である旧日本銀行広島支店の地下金庫室で開かれました。原画展は修道学園(中・高)同窓会も後援し、オープニングセレモニーでは同窓会の深山英樹会長(高校12回)がテープカットに加わり開催を祝いました。

「あすなひろし」は最初、矢野高行氏と川本弘昭氏(高校11回)の2人の共同のペンネームでした。2人は高校3年のときに同じクラスになり、漫画好きで意気投合。ともに漫画家を夢見る「相棒」となりました。2人は高校卒業後に就職しましたが、しばらくしてから辞めて一緒に上京。2人で考えた「あすなひろし」のペンネームを共同で使い、切磋琢磨しながら漫画を描いては出版社への持ち込みを続けました。川本氏は事情があっていったん広島へ帰郷しましたが、矢野氏は東京に残って持ち込みを続けました。そしてついに1961年、「少女クラブ」冬の号に「まぼろしの騎士」でデビュー。それから「あすなひろし」は矢野氏のペンネームとなり、1972年には小学館漫画賞を受賞。川本氏は「川本コオ」のペンネームで漫画家になり、現在も活躍しています。

矢野氏は東京の生まれですが、裁判官の父の転勤のため6歳で呉市に移り、修道中高校へは可部から通いました。多感な少年期を、被爆の傷痕が生々しく、復興へのエネルギーがあふれるヒロシマで過ごしたことは、漫画家としての素地にも大きな影響があったことでしょう。生涯を独身で過ごし、400点以上の作品を残して2001年に60歳で亡くなりました。

今回の原画展は、広島の親族が保管している約6千枚の原画を実行委が厳選。没後13年という節目に初めて広島で開く、いわば「古里展」となりました。地元をはじめ関東、関西や九州、四国など各地から、10日間で4千人に迫る入場者がありました。

期間中には、こんなエピソードも。高校11回の同期生でつ

くる「修道一一会」の名簿の表紙を描いた矢野氏の原画が持ち込まれ、急きょ展示となったのです。細く短い線だけで描いた傘のように枝を張る大木。太い幹は修道高で学んだ時期、たくさんの枝は卒業後に各界に散り懸命に生きる同期生の姿にも重なります。

原画を寄せたのは山本和登氏(高校11回)。山本氏が名簿作成のため1984年ごろ、神奈川県葉山町に住んでいた矢野氏に手紙で依頼。1カ月後に届きました。「矢野君と同じクラスではなかったけれど、絵がうまいことは当時からみんな知っていたから」。てっきり少女漫画家だと思っていたので、届いた絵の圧倒的な存在感にびっくりしました。名簿を改訂するたびに、同じ原画を使っています。

原画展には多くの同窓生が訪れましたが、とりわけ高校11回の同期生が多かったといいます。実は修道一一会のメンバーが新聞報道で原画展を知り、近郊の同期生にはがきで案内を出したのです。「あすなひろし」という漫画家の全容を初めて目にし、驚きとともに、同期生としてうれしさと誇らしさを感じたようです。あすなひろし再評価の機運も高まりつつあると聞きます。同窓会としても、応援したいと思います。



林県会議長 全国都道府県会議長会会長に就任

林広島県会議長(高11回・修道学園理事長)は、平成26年5月29日に開催された全国都道府県会議長会臨時総会において新会長に選任されました。

任期は、平成27年4月29日まで。



平成27年版(第36号)同窓会名簿発行

このたび、平成27年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。個人情報保護法の施行にともない、名簿の発行に慎重な声も聞かれますが、同窓会活動を今後さらに充実、発展させていくためには、会員相互が連絡をとりあい、親睦を深めることが大切であり、そのためには会員名簿の定期的な発行は不可欠なものと考えます。

今回の同窓会名簿発行は、個人情報の慎重な取り扱いを最優先課題とし、同窓会で十分協議を重ねた結果、前回同様プライバシーマーク取得のデータ整備専門会社(株)サラトに委託することにいたしました。発行は平成27年3月を予定しております。何とぞ会員皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

「修道学問所之蔵」移築・復元工事並びに募金活動完了報告

同窓会100周年記念事業の「修道学問所之蔵」移築・復元工事は、平成24年4月5日に着工し、2年4か月の工事期間を経て、平成26年8月に完了しました。

この事業にあたっては、必要な資金を全て寄付金で賄うこととし、3千万円の募金目標をたて平成23年11月に募金をスタートしました。お陰様で多くの方々から多額のご寄付をいただき、募金総額は目標額を大きく上回る5千万円に達しました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

これから平成27年度中に広島市の重要有形文化財の指定を受けるよう申請作業を

行ってまいります。平成27年は被爆70年にあたります。この節目の年に被爆建物である蔵が市の文化財に指定されるよう努力してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金応募者数 (平成26年7月31日現在)

区分	金額(円)	人数・件数	構成比率(%)
個人(同窓生)	25,246,857	1,698	77.3
◇(保護者)	5,321,000	349	15.9
◇(学園関係等一役員、教職員等)	1,520,000	51	2.3
法人等(同窓生関係分等)	18,054,453	98	4.5
計	50,142,310	2,196	100.0

募金応募者ご芳名 平成26年7月31日現在処理分 (敬称略、順不同)

●同窓生 (旧中25) 迫田 斉 (旧中27) 久保 弘 (旧中28) 石崎喜代造、石田 忠信、神居 詮正 (旧中29) 岡田 光彦、藤村 宏 (旧中30) 森信 毅 (旧中31) 岡村 吉彦、児玉 良男、竹内 徳三、仁井 彰造、広野 治彦、湯浅 福三 (旧中32) 中谷不踰矩、山田 有利 (旧中33) 磯谷 好信、久保井正行、斎藤 龍夫、中吉 啓治 (旧中34) 諏訪 一正、野間 博儀、反田 拓男、道岡 一男、宮崎 政治、和田 曠 (旧中35) 小田 和磨、加藤 俊治、加藤 友行、玉木琥次郎、新見 剛上、山本 鏡男 (旧中36) 壹岐 典次、岩森 茂、片山 安之、川崎巳代治、小林 邦男、根来 智、林 昭雄、水野 巖、脇 勲 (旧中36) 井上圭太郎、岡田 義馬、岡本 良夫、櫻原 尚、坂田 泉、田中 平洋、徳永 聡、西本 裕、平岡 昭二、藤田 弘、正木 武教、山本 和夫、山本 素夫 (旧中37) 天野 和人、大原 克玲、河本 武彦、中村 幸博、益本 茂、森河内清三、山本 治孝、横島 章二 (旧中38) 粟村 謙、勝村 達喜、川上 貞光、木村 静人、楠 勲二、小西 悟、佐伯 勇雄、佐方 光、島田 康和、西原 雄二、村上 英臣、芳野 統男、渡辺 寿昭 (旧中39) 石本 芳郎、岡島 元信、岡野 健、奥本 博、加藤 亮道、河村 勲、久保 康男、重谷 篤男、新谷 昭治、高瀬 皓、谷川 嘉祐、地土井襄聖、縫部 貞彦、三宅 利正、山田 譲宋、山田 足穂 (新中2) 岡野 良昭、河本 徳登、下地 二郎 (新中4) 染谷 満亮 (新中14) 栗座 義人 (新中16) 酒匂 隆雄、山部 浩一 (新中17) 柏原 保久 (新中18) 黒川 耕治 (新中52) 大森 公輔 (新中58) 新宮原悠太 (新中59) 濱本 慶太 (新中61) 浜本 優太 (夜中41) 田口 吾一、肥後 文夫 (夜中42) 三宅 六也、山下 暲 (夜中43) 天島 常彦 (夜中46) 橋本 弘 (夜高2) 吉戸 貞 (高校1) 阿須賀雄三、井東 茂夫、坪田 幸雄、林 有厚、麓 忠義、森本 昭男 (高校2) 阿部 正、大石 武敏、大島 直彦、折出眞喜男、賀志谷慶昭、木原 昭、品川 晃二、下村 幸男、永谷 道孝、中村 和彦、西川 茂、西田 頼信、濱田 一馬、林 孝治、林 晃司、原田 三郎、古田 卓生、細川 清 (高校3) 上林 寿三、王堂 勝明、大津 守男、大西北呂志、大野 文夫、木谷 次郎、久保 瑞穂、小西 輝男、佐々木宏二、立本 輝夫、谷口 範雄、藤井 俊彦、正本 良忠、松川 繁夫、松野 龍莊、水谷 弘、光沖 幸雄、横井富士雄、吉川 昭満 (高校4) 荒木 暁、石堂 功卓、梅田 博之、大下 明敏、大島 襄二、鏑崎 卓郎、木島 丘、河野富士雄、丹光 常泰、長坂 公一、中野 壽、平川 篤雄、宗像 英三、行友健一郎、好本比左史、和田 世弘 (高校5) 今村 功三、小田 太郎、柏木 正幸、國田 昌之、河野 継男、清水 信也、新藤 幸雄、中田 重文、中司 浩生、西村 和郎、浜野 武司、水無瀬敏郎、山崎 經男、山根 礼司、古田 隆規、横山 俊朗、渡邊 浩其 (高校6) 井上 公夫、内海 明、鶴野 俊雄、奥窪 和夫、折尾 昭雄、川本 英介、吉川 雄幸、小畑 正秋、小松 昭紀、笹木 正己、重信 卓三、柴田 晃久、諏訪 惇、田頭 国昭、田中 博司、竹内 英夫、竹中 生昌、土井 哲男、中越 哲男、中村 信之、間 貞雄、八田 敏郎、松井 秀夫、平田 英樹、藤澤 洵、星加 光一、萬谷 俊之、三上 博、水原 恒、三原 宏男、宮河 清、山本 弘樹、山本 盛保、渡 (高校7) 浅川 毅正、浅野 雄司、網本 直行、井上 宏道、今子 正義、嵩淵 尹嗣、内 惇、大崎 洲、大下 明、大下 龍介、沖 暁、梶井 正己、梶川 勲、片山 修義、清益 英雄、蔵田 英明、倉田桂二郎、桑原 正彦、柴田 醇、清水 尚徳、杉山 幸一、竹中 平和、谷口 千秋、中井 弘明、新見 譲治、二反田勝頼、畠 眞實、藤田 正明、古土井正治、前川 謙二、松田 欣也、宮本三千雄、森本 弘道、山下 晋吾、山田 従麿、吉崎富士雄、吉田 邦介、義村 快治 (高校8) 石田 卓司、井上 博文、雄井 静照、内田 孝夫、江尻 隆雄、大塚淳八郎、大橋 利男、大藪 信彦、岡田 安弘、岡本 裕之、金林 秀明、木村 満、久保田 清、栗浩浩二郎、小西 清彦、坂田 興平、佐々木哲也、師岡 劭、末国 陽夫、埴野 博昭、高杉 潔、高東 嘉毅、高森 成之、竹内 和昭、竹中 虎夫、立石 元佑、田中 博隆、谷川 正義、輝内 利孝、寺迫 義人、新居 俊之、林 徹、平本 章直、福永 宏、藤井 仁貴、藤岡 茂和、藤原 義剛、湊 良介、森 健兒、山崎 義夫、山下 浩、脇 康治 (高校9) 青柳 陽一、浅野 益一、飯田 憲義、石井 宏昌、井上 武彦、歌田 一盛、岡本 哲司、折出 郁三、角谷 勝也、川口 敏明、桐原 務、櫻岡 幸三、久保 宗雄、黒田 邦美、酒井 克彦、日城 大陸、庄司純三郎、新本 稔、鈴木 健夫、峠 茂男、高亀 隆社、高場 利博、竹鶴 哲、茶崎 圭司、戸田剛太郎、友井 内藤 慎吾、中川 博彦、中田 孝、中十 實、西村 宣紘、初鹿野慎吾、原 明久、原田 直美、増井 克志、松本 光弘、三宅 史男、横田 守、渡辺 史朗、山脇 俊彦 (高校10) 赤毛 浩治、赤崎 泰中、有田 博司、石井 宏信、伊藤 紘、因幡 佳信、上杉 訓史、江川 国昭、遠藤 治宣、大井 康喜、大角 正昭、大谷 宏明、小方 博、尾崎 正亮、於保 弘美、加藤 健夫、川上 紘、木川 庄司、鬼頭 将介、楠本 欣史、久米 一式、小島 昭臣、佐伯 和夫、佐々木正博、佐々木秀昌、佐原 捷三、烏谷 剛、杉原 久雄、高木 一之、隆杉 端、高橋 民明、高山 岩雄、田川 征三、竹口 浩三、谷 祐喜、寺西 弘太、土井 啓嗣、戸田 孔成、富原 健司、永井 勝彦、中田 宏、中丸 建二、中村 英雄、永吉 晋吾、西谷 康男、橋本 亮、浜中正三郎、早速 祐一、東 水豊、平石 達志、平賀 節、平本 徳松、平本 秀夫、広本登志雄、福岡 信夫、藤高 一男、藤本 武則、細田 正雄、堀江 宏、本田 龍一、三浦 康英、三木 隆之、三谷 敏治、宮郷 晴督、村上 勝長、持田 良雄、望月 昭、森川 清嗣、森元 澄正、八島 壯之、安田 邦男、大和 忠雄、吉井 暉明、芳谷 實、渡辺 武司 (高校11) 浅野 展行、足田 萬蔵、飯田 浩、池田 達也、石田 彬、今坂 建生、今村 和紀、大内 修、岡本 弘嗣、加計 正弘、笠井 繁富、金子 正昭、楠 輝歳、倉本 卿介、小泉 隆司、河野 敬雄、五反田 務、佐々木 潮、末田 佳久、隅田 文行、空 明輝、高木 啓爾、田島 邦雄、立山 堪丈、田中 秀生、靈岳 文悠、土井 宏、友井 正男、中原 一、長光 史紀、西岡紘一郎、新田 康郎、灰山 彰好、林 正夫、原 満紀、福永洋二郎、福原 康方、福原徳次郎、藤井 伸也、藤川 長正、益井 浩、益田紀志雄、松田 敏郎、松本 武治、丸岡 鐵夫、三井 泰造、毛利 敏明、矢舖 雄一、保本 和宏、八谷 矩充、山崎 健治、山本 拓志、吉田 安矩、渡辺 哲真 (高校12) 篤 光久、網谷 隆雄、池田 英彦、石井山雄平、石村 謙吉、伊藤 堯、沖 純次、片山昭太郎、加藤 吉則、加藤 省吾、加藤 良隆、川上 徹也、久保 行夫、蔵田 敏彦、児玉 憲三、小林 清俊、真田 昌治、繁村 良毅、島地志一郎、鈴木 通久、竹田 正信、谷川 雅洋、堤中 唯司、鶴岡 功、土井 洋二、中川兼太郎、中前 義博、西林 洋平、西元 義昭、野村 常雄、橋本 洋、橋本 光博、浜中 宏一、深山 英樹、富士田尚弘、盛井 浩、増岡 林丁、増本 光雄、松下 英豊、村上 稔、室岡 義勝、望月 利昭、森本 俊彦、山上 隆弘、山下 晃正、山本 繁生、米重 文樹、綿貫 昌芳 (高校13) 秋山 泰廣、生田 博通、岩井 八彦、伊野本雅昭、井原 俊彦、岩佐 直明、上尾 勝彦、大方 勝弘、岡本 與吉、奥藤 康洋、梶本 勝也、川手 陸雄、川野 廣、神辺 眞之、木下 武昭、木村 正勝、木村 英夫、熊本 敦光、黒杭 剛夫、乘原兵二郎、小松 俊作、近藤 敦彦、坂田 憲希、佐々木正之、笹木 幸彦、佐藤 一彦、下迫 洋一、下野 洋介、杉山 武司、田島 孝、田中 見平、

谷口 博望、土井 忠明、長西 靖、中野 輝博、榎村 光雄、花岡 宏、番匠 宏行、久川 壽彦、平岡 照祥、藤井五十四、藤田 邦彦、正岡 勝、末末 勇夫、三ヶ本義文、森平 学、山根 恒弘、吉貴 康二、米田 達雄 (高校14)荒巻 慎一、磯浦 克敏、井西 理博、大久保雅史、大西 利武、岡本 耕一、岡本 理、沖田 久、沖田 工、小谷 元昭、豊岡 博夫、加藤 信雄、川井 清、河村 譲、熊野 澄雄、桑原 正二、近藤 平、齋藤 松美、佐々木信義、曾爾 征男、高場 誠司、高橋 滋、近光 康、佃 和夫、土屋 敦通、中丸 成俊、中村 勤、中村 昭夫、貫名 賢、山本 一隆、成富 博章、野口 忠勇、林 建壮、福永 積、三浦 康彦、三嶋 弘、三田 義之、森田 博方、山肩 俊晴、山河 清、山木 靖雄、山崎 正博 (高校15)宇田 毅、岡田 琢司、岡田 徹也、岡村 宣明、岡本 甫、小田 敏明、梶谷 泰司、神田 敏治、桑野 克彦、小出 公彦、静川 周、武田 昭英、多田 勝久、田中 和彦、多山 博通、俵 正道、辻上 志廣、土井 和士、徳永 彰、永井 晃、永松 浩二、貫名 徹、野間 昇司、馬場 満男、福原新一郎、福原 啓一、藤本 修身、船本 聰武、星田 昌吾、松島 道博、峰崎 直樹、三宅 恭次、深山 敦祥、名井 弘、山下 幸雄、山中 好文、山根 康弘、吉田 幸弘、吉野 達夫、米田 正己、早稲本武能、渡辺 英彦 (高校16)泉 武志、上田 宗岡、大儀 文雄、勝田 謙、加藤 暉雄、加藤 和行、国広 孝昭、小島敬太郎、佐々木正剛、竹本 恒行、田中 宏毅、玉木 興彦、土井 正毅、土肥 博雄、中野 卓司、長野 昌敏、仁井 健治、新見 芳宣、西原 靖彦、福馬 勝洋、藤原 修、松陰 宏之、真鍋 伸二、万代 峻、宮武 一弥、宮馬 恒夫、山崎 尚史、山下 達博、山田 勝士、山戸日出雄、頼田 昭 (高校17)石井 知行、石本 耕治、市岡 忠士、岩崎 洋亮、岩原 重之、大石 勉、沖中 正彦、坂戸 信行、新谷 綾吉、末次 文雄、菅波 憲二、杉本 邦昭、菅田 巖、住本 賢二、関屋 俊彦、高橋 直昭、高安 年男、高山 光徳、多幾 山斯梵、内藤 文政、信原 憲治、浜田 慎、平岡 克英、福田 和国、松本 淳、松本 安民、美濃 和彦、村尾浩三郎、村上 正、森本 訓、山田 和弘、横山 佳雄、吉岡 尊成、米今 明彦 (高校18)秋田 陸夫、秋本 尚孝、秋山 彰、天野 哲也、荒川 信治、石田 義行、市川 太一、井手 武朗、稲田 英明、今村 憲三、岩森 洋、大石 良雄、大野 晋、岡田 弘、奥本 五夫、喜代吉榮徳、國吉 秀明、小松 隆、佐々木 尚、笹野 正明、真田 裕、澤野 邦彦、白井龍一郎、新谷 信雄、住田 敏、高本 友博、竹本 久男、柄 俊彦、中矢 一成、灘 和憲、二宮 健一、長谷川一彦、弘中 正美、福原 千禮、正国 和之、松島日出雄、三村 邦雄、山川 淳二、吉田 信隆 (高校19)浅沼 正、油野 茂、石堂 年男、高山 光徳、多幾 山斯梵、井原 英有、大崎 広光、大蔵 卓麻、岡谷 義則、小野 栄治、柏原 俊夫、加藤 寛、金田 幸三、河村 政博、熊野 眞、栗林 青史、玄道 文昭、西郷 理夫、品川 勝造、清水 克英、高松 隆夫、竹島 哲郎、龍井 郷二、玉川 博、寺村 康博、中野 重幸、中村 進、西川 正洋、西田 寿起、西山 敏幸、野崎 敬二、橋本 守男、島山 進、林 治令、土方 正、藤本 敏昭、本地 正治、松村俊太郎、吉田 憲一、吉原 泰明 (高校20)穴田 一善、井久田哲雄、池田 雅美、石川 元造、市川 俊明、伊藤 學人、植木 義博、宇根川 満、江部 康二、岡 洋二、小川 秀則、沖 清、越智 秋雄、河村 文臣、木村 構臣、幸田 清文、佐伯 英行、佐伯 眞、佐伯 俊治、左近 輝明、羽々木 満、澤野 文夫、下花 一博、新原 芳明、竹重 元寛、田原 寛、徳本 秀昭、富永 健三、中川 元、中村 幸信、新田 保、根波 秀憲、羽井 紀行、浜井 貴人、浜田 広、浜田 文男、前原 敬悟、増井 隆、松枝 俊博、松本 幸雄、三村 信男、宮野 進介、矢埜 孝三、山崎 貢、山下 照男、渡辺 文衛 (高校21)浅井 幹夫、足立 哲郎、石井 幸治、石堂 隆雄、石原 隆、今田 正吾、今津 芳文、大内 千秋、大倉美知男、大沢 茂、大島 正和、可部 典良、河相 修、木矢 克造、児玉 哲郎、澤 博海、菅野 康則、滝熊 伸治、玉理 英治、寺本 純生、中丸 直明、永山 博夫、中吉 雄二、野々村健造、林 寛、藤井 一郎、藤居 道正、船井 真、宮部 秀文、望月 豊博、山本 裕司、結城 政治、湯山 秀昭、若狭 茂 (高校22)秋田 正洋、芦矢 浩章、網崎 修、有本 卓郎、石木 俊治、宇田 均、大辻 茂、大西 龍夫、岡村 忠樹、岡本 正、神垣 昌人、唐崎 洋一、河口龍太郎、川崎 正晴、北垣内美彦、黒木 潤、近藤 弘一、佐伯 正夫、迫谷 章、佐々部博吉、鳥村 誠、清水 信明、田中 昭洋、田村 興造、辻井 正典、津田 広志、中井 敏隆、中川 道弘、中川 剛、西本 安伸、長谷 哲光、波多野博昭、浜口 政司、藤井 伸雄、前田 正博、榊井 光宏、松本 憲治、三宅 俊司、明田 任功、望月 公正、矢尾 正、山尾 浩行、山崎 広樹、山本 俊爾、渡辺 雅夫 (高校23)畔地 善郎、飯田 省三、岩室 良、植木 和夫、浦手 信也、恵谷 龍二、榎 幸男、大橋 透、河野 高信、佃 政治、中村 誠吾、中本 高明、濱本 康男、広畑 史朗、松尾 和則、三宅雄二郎、三宅 正記、山下 江、山本 茂樹 (高校24)阿部 光昌、有馬 昌宏、生田 耕治、石橋 徹雄、上田 浩二、鶴川 寿信、江川 準一、大方 政信、大森 啓司、岡田 馨、落久保博明、尾中 郁夫、梶山 重雄、北岡 康典、木平 孝治、木村 清志、桐田光一郎、蔵田 和樹、栗原 重太、河野 芳徳、坂尾 良一、下田 保清、鈴木 清明、高橋 澄夫、田村 正毅、椿田 直也、中村 勝直、橋本 成史、藤井 秀昭、藤田 省蔵、船倉 智雄、正木 浩規、升本 秀治、松枝 茂樹、松田 弘、丸尾 達也、三島 豊、御手洗 毅、宮田 晃、八谷 忠伸、山本 秀樹、吉村 圭司、由村 健夫、渡辺 省自 (高校25)川本 浩正、栗橋 長典、洪 敏幸、大作 浩一、田中 雅彦、田中 誠史、九十九 徹、津谷 隆史、坪井 悟、友村 泰博、平田 義隆、三輪 裕久、茂久田 修、森本 忠雄、山下 哲司、山本 明芳、吉田 大造 (高校26)青木 龍幸、浅津 英男、岩井 肇、梅本 誠治、奥窪 宏章、角田 良明、片岡 健、木上 義仁、木之上 馨、功野 和正、小塩 弘文、近藤 豊、大江 修行、鈴木 重信、遠山 敬史、中井 雄三、中川 義基、中郷 実雄、西口 修、濱田 賢治、浜本 博文、福田 佳之、三村 一郎、森永 哲文、山根 哲士、吉井 昭彦、吉本 智 (高校27)石川 清隆、石本 俊亮、伊藤 博之、井野口 稔、上杉 富之、海田 英俊、小田 玄、川原 正照、楠田 雅夫、坂根 甲作、西田 和郎、竹山 隆善、谷口 俊彦、戸谷 純治、富田 恵治、友末 亮三、藤村 崇人、古米 弘明、松野 清、宮内 透、三宅 義彦、山田 淳一、横洲 秀輝、吉田 栄治 (高校28)生中 雅也、石飛 慶久、石森 善貴、今野 雅博、上本 泰之、胡中 尚登、大濱 貴彦、小川 修、奥本 祥二、小田 健尚、木原 康晴、神田 尚、木原 康裕、小林 庸晃、佐々木俊之、定永 雅紀、白石 明裕、須山 尚宏、瀬川 光俊、世良 茂雄、高場 敏雄、田中 真治、辻村 祥之、鶴 衛、戸井 雅和、永岡 一信、中東 正彦、永久 幸範、中村 千秋、橋本 郁朗、波多野智之、廣谷 清、福本 茂信、藤川 尚二、増矢 学、松井 茂幸、松浦明一郎、杉川 聡、松谷 信吉、松本 浩昌、柳原 邦典、山岡 良任、山近 重生、山本 泰弘、吉田 雅嗣、若宮 克彦、脇田 慎一 (高校29)若佐 義宏、岡田 顯彦、堅田 宏司、川本 昌宏、清永 宜宏、小橋 貢、下村 幸生、杉本 敏哉、高居 和樹、竹川 誠、辻 剛治、中山 巖、平岩 正行、平繁 龍哉、平原 周二、増田 秀夫、杉浦 透、三浦 靖彦、三春 範夫、三宅 秀雄、物部 光雅、山名 良明、結城 恵司、若宮 信二、和田 章宏 (高校30)荒木 裕三、木島 到、木村 孝一、小泉 直樹、小松原浩平、實森 直実、重田 雅史、杉山 誠、田川 繁章、龍田 賢司、津曲美智也、土岸 弘典、中村靖富満、灘本 幸宣、日浦 毅、原 純、平賀 弘一、藤井 直人、松井 直也、皆本 恭介、宮崎 忠彦、矢原 隆行、山科 和士、山田 薫、吉岡 敬司 (高校31)石井 茂、石田 晃司、伊藤 聡、大久保典浩、太田 英之、大本 昌樹、岡田 佳広、越智 尚之、梶村 尚二、和村 裕夫、飯田 典久、北平 裕史、久保田貴八郎、久保田 章、近藤 正樹、下野 研一、田中 信、谷川 浩、豊田 章宏、中谷 浩樹、西本 充伸、平野 泰史、平本 勝、松原 浄、三井 法真、向田 哲規、毛利 雅哉、八木佐美雄、八木 良典、山崎 健次、山本 英雄、吉岡 敏彦 (高校32)石橋 寛、石本 耕二、浴 彰、天野 成幸、甲斐 敬康、加賀谷有行、日下 智晴、小林 泰輔、下原 浩司、高田 祐司、田嶋 克宏、田中 英司、近久 和彦、榎崎 雅司、檜山 典英、檜山 彰、山下 禎文 (高校33)井上 真吾、井上 敏彦、鶴野 徳文、遠藤 伸彦、大若 慈郎、太田 秀明、大田垣博文、岡崎 慎二、岡本 英一、堀口 純、神邑 剛司、木原 護、楠 茂雄、国沢 譲司、河野 晋、杉 桂二、高田 敦善、高橋 宏幸、高橋 宏明、中島 弘規、中田 英樹、中津 裕彦、中野 智之、中原 好治、西村 政彦、源 良友、東山 浩幸、横田 康博、の場 政樹、三反田 孝、山岡 博、山口 裕己、山口 明範、山野 英哉、若林 伸治、渡辺 嘉浩、渡辺 光章 (高校34)池江 隆正、池田 晴人、石井 真二、大井 博文、大倉 義文、太田 辰、香川 孝之、勝原 敏博、川崎 博行、川本 博也、木田 一哉、木原 康裕、木村 太言、熊谷 宏、栗原 昭顕、高祖 清泰、小松 修、庄野 弘高、世良 英樹、地土井健太郎、辻 直一、中井 訓治、原田 薫雄、福島 進吾、福田 朋範、福谷 伸仰、藤田 昌信、正木 忠勝、松野 知宏、水野 直、山本 佳史、吉永 文哉 (高校35)石田 誠治、上坊 昌之、河越 宏之、倉田 昌典、皿田 琢司、高橋 和寛、竹田 欣史、田村 尚之、土田 隆、戸田 友廣、和照、中野 正明、箱田 滋、畠 真博、畠山 誠、神吉 和重、宮本 和明、安田 圭寿、山永 克己、横田 和典、吉永 功憲 (高校36)岩田 圭治、海生 知克、勝川 昇、上川 一夫、河西 俊明、好澤 潔、佐々木 秀、瀧 禎史、土肥慎二郎、中村 佳司、藤広 稔、松原 真児 (高校37)井口 太、池田 勝彦、石津 文康、猪原 章午、今西 伸一、魚住 泰宏、大江耕一郎、大元 信二、岡成 健司、沖野 克紀、神光 勝男、久保 康治、久米裕一朗、柴本 潤、児玉 寛治、小橋 俊彦、笹木 伸一、竹内健二郎、永井 康、中山 雅彦、二井 亮、白部 裕次、蜂須賀永三、萬谷 智之、山本 康裕、山本 浩、吉田 一幸 (高校38)相方 浩、岡田 浩一、鎌田圭次郎、黒田 一三、大方幸一郎、佐野 泰志、下川 信宏、須山 豪通、武田 泰三、筒井 直樹、友定 裕史、中川 敬夫、樋笠 敦之、福永 雅之、山口 一敏 (高校39)井川 正晴、石橋洋一郎、井原 恭平、岩本 竜一、大塚 雅也、金島 茂則、北村 直幸、香月 孝史、佐藤 文昭、莊川 知己、新谷 英俊、高橋 毅、瀧内 秀元、谷光 徳晃、寺町 一樹、中村 研、西村 昌浩、西本 洋介、福島 幸成、船倉 正、堀尾 弘治、向井 啓司、森本 博典、山岡 良浩 (高校40)折田 常宏、加計 正晴、梶山 勝哉、加藤 徹、河部 浩幸、木本 厚徳、小林 篤史、品川 哲也、柴田 憲行、立花 宏司、田戸 亨、西田 仁、益永 喜則、三宅 伸之、横山 晃、吉野 智之 (高校41)伊井 通敏、石飛 隆文、上田 誠治、江木 康夫、加計 康晴、川島 次郎、久米 洋治、清水 裕介、杉屋 将、竹内 努、中田 真一、西田 天次、新田 幸己、箱田 善弘、藤田 武史、古城 卓也、益永 英治、丸吉 忠輔、三田 修司、宮崎 満徳 (高校42)鮎川 誠、石木 治、石原 和幸、大神 崇巧、大田 徹、岡田 剛、尾川 正洋、加登 達也、佐藤 憲彦、真田 泰典、

新谷 耕実、竹明 昇、福知 基弘、藤間 幹夫、松本 正俊、水戸 善爾、村上 貴昭(高校43)沖光 達也、竹腰 利嗣、加藤 祥治、高木慎太郎、貫名 聡、能美 幸洋、福本 拓治、藤山 将、豆田 敬二、三崎 和也、宮本 健治、守田 聡、守屋 智和(高校44)浅川 智洋、市川 慎悟、伊藤 吉孝、井上 涉、榎本 正統、幸本 洋海、小谷 博明、酒井 政克、島本 琢士、末盛 智彦、高橋 信也、西川 祥央、畑石 颯司、伏見 光暁、堀 和明、水野 憲治、三田 博史、宮本 洋平、村本 真一、横道 和浩、横山 貴一(高校45)阿部 千令、栗屋 隆之、伊藤 智朗、大内 正志、大内 泰弘、金井 正樹、金尾聡一郎、川崎 茂樹、川崎 哲生、椎野 泰和、白鷺 良史、竹中 宏之、田中健太郎、貫名 洋次、松尾 和哉(高校46)旭爪 章統、太路 秀紀、児玉 英寛、小室 茂寛、清水 亘、杉原 一誠、谷 充理、津村 光洋、羽田 敏顕、山田 展晴、吉井 大晶(高校47)真田 龍司、島 宗辰、鈴木 将峰、土井 学、中前 稔生、西村 直樹、原本 俊明、原田 朋弘、檜山 正樹、前場 俊輔、松島 泰樹、渡辺 明由(高校48)上瀧 修也、甲斐 恭仁、白井浩一郎、高橋健太郎、中前 宏紀、中村 道雄、平井 貴富、三宅 泰雄(高校49)芦刈 亮、石丸 進、稲田英一郎、京山 真徳、竹内 友彦、浜田 茂、本多 立憲、丸田 章弘、山崎 浩史、山田 澄朗、和田木琢也(高校50)石尾 隆、中吉 一平、濱田 信輔、深田 浩介、三上 仁志、森下 浩明、山本 真也(高校51)迫谷 聡介、鷹橋 健二、土肥 栄祐、山本 彰、山本 裕介(高校52)神垣 司、助永 壮平、千田 一義、高橋 峻洋、谷 博雄、為重 文覚、波多野正吉、楢垣 忠直、細田 康夫、政木 彰太、松島 康平、三宅 一真(高校53)内海 貴、大辻 健介、小岩 久貴、志和山 健、西角 豊、廣實 慶彦、道中 真宏、宮本 博之、宗真 伸孝、村上 彬、米田 剛(高校54)楠 和也、内藤 貴明、中村 真也、濱中 孝喜、横殿 公誉(高校55)猪花 祥雄、越智 基匡、京 道人、菅田 祐貴、多田 誠、野村 勇貴、藤本 裕亮(高校56)池田晃太郎、大田 悠貴、大森 翔平、坂 俊亮、佐々木亮治、田中 翼、中本 浩昭、根本 直也、羽原 幸作、藤原 崇晃、松枝 良祐、山口 航、吉田 雄介(高校57)金本 和也、上司 智善、佐伯 知哉、中村 篤生、村上 朋輝(高校58)小野 泰輔、財満 和典、高森 勇次、藤原 誠、正木 善幸、松本 和也、望戸 俊宏、八谷 文貴、山尾 翔(高校59)市川 裕樹、伊藤 正俊、今田 康博、大田 啓貴、大段 直也、岡本聡一郎、尾川 大介、上司 文善、佐和 弘喜、昌子 佳晃、高野 芳彰、谷本 晃一、永井 亮、中村 光、南原 良太、根本 潤、花園 雄三(高校60)池原 智彦、石飛 悠希、大木 友之、岡田 裕太、奥本 知也、小野塚太郎、木本 潤、楠 悠希、小林 佑輔、下反 元貴、菅 智裕、竹本 祐樹、中川 晃、仁保 隆嘉、濱田龍之介、藤谷 哲平、溝口 佳紀、守屋 憲人、山中 翔、吉金 伸洋、米津 泰彦(高校61)阿比留隆太、荒田 昌、石田 正彦、石橋 一樹、岩井 崇、小田 涉、亀島 亮、菊池 圭祐、藏田 勇祐、佐々木侑亮、武田 航平、鶴 健太郎、永井 至音、秦 寛以、福原 康祐、増原 義洋、松井 悠成、松木 光嗣、山崎 健輔、山名 啓介(高校62)碓井 宏宜、浦 信介、岡本 和也、木村 卓弘、杉野 健太、堂面 宏起、中川 正崇、野上 亮輔、藤本 直也、鎗田 昇悟、米津 荘彦(高校63)市浦弘一朗、井元 健志、上野 大、梅本 章雅、奥 真一朗、加賀谷 彰、河石 芳浩、河本 悠輔、北川 悟、日下部修造、小池 貴之、坂本 友哉、佐々木俊明、佐藤 啓介、澤山 兼吾、竹上 直輝、田中 知行、町村 應崇、辻山 照仁、富田 啓貴、豊島 匠、中村 誠、中村 伸也、服部 駿平、日浦 幹、平田 脩、藤田 浩貴、藤田省一郎、堀川 啓太、本城 顕彦、本田 智大、三根健太郎、宮本 知紘、三好 大、山名 康介、吉金 宏高、六万 賢人、渡部 真

●保護者 秋田ひろみ、朝日 均、安部 隆弘、網本 達也、新井 昌禎、荒野 聡、井居 秀隆、池田 哲哉、池田 清、池田 修三、池本 治、石井 誠司、石井 雅也、石井 秀治、石井 貴之、石田 淳、石田 誠治、石田 学、石本 泰啓、石本 和輝、頂岳 龍成、板根 富規、伊藤 雅啓、伊藤 守、井上 省吾、井口 亨、今井龍太郎、今井 真紀、今田 省、井山 朝之、岩崎 智孝、岩崎 央、岩田 数哉、岩原 恭代、岩元 浩一、上藤 正善、上坊 昌之、氏家 祥弘、臺 敏則、海崎 新造、梅田 敏之、梅本 剛、卜部 哲禎、榎木 俊志、胡 修三、大瀬戸 晋、大谷 清治、大西 博之、大島 正行、大林 秀則、大村 和弘、大森 啓司、大山 茂、岡 信治、岡田 典之、岡田 真、岡埜 正彦、岡野 克巳、岡原 史郎、岡村 智鶴、岡村 寛、岡本 雅樹、岡本 和穂、岡本 精二、岡本 昌義、小川 伸夫、小川 貴彦、沖 貴則、萩野 倫也、沖政 盛治、沖本 哲一、沖本 恭治、奥迫 功、奥永 一義、越智 崇雄、柿田 勝司、掛 優子、梶村 悦弘、鍛冶本幹夫、梶本 宏二、片山 伸吾、片山 行弘、片山 大助、桂 達雄、加藤拓一郎、金森 裕之、金原 一次、金本 巖、燕逆 英樹、龜田 浩二、唐川 寿洋、川崎 卓也、河田 一実、河藤小百合、川端 信之、川本 克行、河本 芳明、神田 千秋、菊池 和哉、吉川 豊二、木下美樹生、木下 哲之、木原 康徳、金 基哲、木村 得尚、木元 宏、木山 光彦、國沢 誠司、國田 丙午、國田 裕之、久保 隆靖、窪田 孝光、倉本 喜文、栗田 安喜、藏田 修、桑原 伸夫、源長 哲司、小池 克史、高 信二、河野 公江、河野 賢治、河野 貴則、河野正二郎、小島 康知、小谷也寸志、五反田 泰、小中 康寛、小林 尚志、小山 哲也、斎藤 茂樹、三枝 道尚、酒井 明彦、坂尾 通男、阪谷 人子、坂原 英見、坂本 正之、坂本 竜一、崎本 直嗣、佐久川 弘、佐々木裕二、佐々木 直、佐々木康成、佐藤 凉、佐藤 淳、真田 文人、志熊 圭三、繁岡 秀憲、重弘 浩二、篠田 英雄、柴村 英典、島崎 正寛、清水 聖子、下村 壮司、白砂 尚生、城村孝一郎、新上 孝郎、仁城 隆憲、新宅 正三、末永 寛、末若 春樹、菅 義彦、菅原 秀則、杉田 博樹、杉原 隆二、杉山 広樹、須澤 健、鈴木 宏昭、鈴木 昭治、須藤 敏清、染岡 慎一、高木 謙、高下 勝治、高野 秀昭、高島 香代子、高森 秀喜、田口 智、田口 浩史、田口 博文、宅見 雄二、武田 治基、竹中 繁雄、武政真由美、田澤 和宗、多田 俊一、多田 英生、立上 紀夫、田中 忠親、田中修一郎、田中 俊三、田中 靖彦、田中 幸一、田中修一郎、谷 洋、谷脇 秀視、胤森 裕暢、田村 照明、近村 淳、津島 正明、土本 伝哉、亭島 淳、寺田誠一郎、寺田 満和、寺田 一之、東端 祥泰、堂前 文、土橋 隆司、友安 敏博、友保 義正、中尾 和浩、中尾 敦巳、中垣 弘明、中川 義基、中川 徹、中川 仁志、長坂 壽一、中嶋 仁志、中田 浩三、長野 吉宏、中村 真、中村 信弥、中村 節男、中村 満彦、中本 孝弘、中本 高志、名倉 敦、嶋井 孝志、二神 正文、西尾 陽介、西川 崇浩、西永 光治、西村 友晴、西山富士弥、仁田満里子、温品 博文、根本 哲哉、野口 貴澄、春村 孝之、萩原 享、橋本 邦宏、橋本 雅明、初島 正次、花田 泰宏、濱洞 孝治、浜崎 理、濱本 正樹、林 秀孝、林 明正、速水 正司、原田 光彦、稗田 雅司、引地 幸登、聖川 隆史、平井 徹、平岩 宏隆、平尾 隆司、平澤希代子、昼田 敏弘、廣次 勝幸、福岡 敬治、福田 哲士、藤井 達也、藤井 康之、藤岡 一天、藤重 雅彦、藤田 任、藤好 俊雄、舟橋 敦、布野 和正、古江 純子、古川 靖司、古川 祐司、古谷 喜義、古寺 伸寛、古屋敷 茂、星原 昌美、堀本 敦志、前 明日香、前沖 正、前川 正貴、前田 輝美、前平 雄二、横原 典昭、増川 英治、升田 裕昭、松井 伸二、松尾 静塵、松岡 和美、真鍋 陸、丸石 誠一、三浦 正功、三浦美弥子、三上 誠司、三口 正雄、水谷 直樹、三城 弘志、宮川 一成、宮下 裕行、宮原 誠、宮本 大輔、宮本 淳、向当 剛治、向井 伸彦、向井 淳、宗近 雅博、村上 正和、村上 義和、村田 栄治、室田 昇一、本原 正和、本安 邦成、森 伸二、森川 順之、森近 昌之、守永 徹也、安岐 敏行、安竹 和彦、安原 邦彦、柳澤 雅洋、柳谷 忠雄、山岡 洋、山崎 勸、山田 昌志、山中 啓司、山延 弥彦、山本 英毅、山本 晃、山本 健之、山本 浩二、山本 卓士、山本 正、山本 浩誉、山本 幹宏、山本 恵、結城 好一、横見 和人、吉田 昌平、吉野 隆治、吉原 広志、頼岡 秀典、力善 博思、若狭 忠雄、若林 伸一、和田 太一、和田 吉弘、渡邊 孝

●法人 (株)アサマラサキ、清源山 教傳寺、(株)安西事務機、(株)アンフィン広島、泉紙業(株)、(株)いとや、(医)うすい会 高陽ニュータウン病院、(有)エー・ティー企画、(医)エム・エム会、(株)大方工業所、(株)オオケン、大塚器械(株)、大旗連合建築設計(株)、尾崎商事(株)広島営業所、小田クリニック、オタフクソース(株)、オフィス・インテグラル(株)、(医)楓会 林病院、(医)翠清会、賀茂鶴酒造株式会社、修道学園(中・高)同窓会関東支部、(有)木島商店、(株)九嶺堂、(株)熊平製作所、(株)廣文館、(株)幸楽、広和通商(株)、小林メンタルクリニック、(医)小町歯科クリニック、五洋建設(株)中国支店、(株)サラト、(有)サンスキール社、(有)山陽スポーツ店、鳥屋器械(株)、修道医会、(医)新玉会、(株)新広島設計、(株)杉田三郎建築設計事務所、(医)聖敬会 田中医院、(医)正樹会 せりかわ医院、ゼネラルスチール(株)、ゼネラル興産(株)、大栄電業(株)、(株)田中共栄商會、中国鉄管継手(株)、田中電機工業(株)、(医)たなかペインクリニック、(医)友成会 タマガワ矯正歯科クリニック、(株)中国新聞社、(株)中国放送、(株)中電工、(株)坪島総合建設、(株)テレビ新広島、天光堂(有)、(株)土井紅葉園、東洋観光グループ、トップツアーズ(株)広島支店、(株)ナガ・ツキ、(株)NIPPO 中国支店、(株)パークサイドホテル、(医)原田クリニック、(株)ピバックス 広島支店、広島ガス(株)、(株)広島銀行、広島県薬業(株)、広島修道大学、広島修道大学同窓会、広島信用金庫、(有)広島教育文化社、広島テレビ放送(株)、広島電鉄(株)、(株)広島ホームテレビ、(株)ヒロタニ、(株)福屋、(有)藤井印房、(株)フジタ広島支店、(株)フタバ図書、(株)ポプラ印刷、マツダ(株)、(医)三浦内科医院、(医)みやうち、(有)名井珈琲商店、(株)もみじ銀行、(株)山崎本社、(株)やまだ屋、山根木材(株)、(株)ヤマハミュージック 中四国、東洋エーエス(株)、(有)ラング教育センター、鯉城タクシー(株)、(医)わだ内科医院

●有志 加賀谷健一、藤重ミナ子、高校四期会有志、高校13同卒業生、高校15同卒業生、高校23同卒業生、高校47同卒業生、高校53同卒業生、(株)広島銀行卒業生

●教職員(退職教職員を含む) 天清 一、壹岐 俊平、糸藤 洋、糸藤 保、街道 武司、川野 観治、木元 俊雄、下向井龍彦、大 純一、田阪 信彦、立川昭二郎、田中 清治、田中 正久、種田奈美枝、西別府元日、平田 幸男、保澤 治、三浦 省五、頼島 令子、赤木 征子、杉山 孝一、澄川 泰雄、澄川 隆子、竹永 英子、田中 佳樹、仲井 正美、中本キクエ、中山 真一、池内 啓、上野原淑恵、田原 俊典、山本 俊二、山光 徹、大橋 康雄、小淵 三夫、妹尾 章孝、近川 俊治、布 美紀子、山中 尚美、吉村 達裕、渡辺 要

●学園役員 宇野 伸浩、新谷 暢英、須田 泰正、相馬 伸一、竹林 守、廣光清次郎、堀内 武彦、三浦 浩之、矢部 恒夫、米田 邦彦

「修道学問所之蔵」移築・復元までの経緯



2012.7.9 基礎石積



2012.4.3 起工式



2010.8.31 解体前の蔵(東区愛宕町)



2012.7.16 棟上げ



2012.7.16 棟上げ



2012.8.2 壁小舞組



2014.8.30 蔵東側



2012.10.11 入口庇取付



2012.9.13 荒壁塗



2014.8.30 蔵西側



2014.8.30 1階内部



2014.8.30 2階内部

事務局だより

住所変更手続きのお願い

住所・電話番号・勤務先、Eメールアドレスなど変更のあった方は、変更手続きをお願いします。変更手続きは、修道学園(中・高)同窓会ホームページの住所変更登録フォーム、または名簿内の添付はがきでご連絡ください。電話等でも結構です。

変更の連絡をいただけないと同窓会からのご案内ができなくなりますので、よろしくお願いたします。

修道学園(中・高)
同窓会事務局

〒730-0055
広島市中区南千田西町8番1号
TEL(082)241-6686(直通)
FAX(082)249-0870
E-mail: dosokai@shudo-h.ed.jp